

災害前後から死亡までの経緯

災害弔慰金の認定を判断する際の重要な資料になりますので、できるだけ詳しく記入してください。

故人の氏名

石川 太郎

1 災害発生前の故人の状況について

(1) 被災前（令和6年1月1日時点）に故人と同居していた家族

氏名	故人との続柄	特記事項
石川 太郎	（故人）	
石川 一郎	長男	

(2) 被災前（令和6年1月1日時点）に自宅での介護の有無、内容、主に介護をされていた方

	介護の有無（あてはまるところに○）	介護者の氏名、故人との続柄
歩行（自宅内での移動）	全部を介助 一部を介助 介助なし	氏名 続柄
排泄（失禁の状況）	全部を介助 一部を介助 介助なし	
食事	全部を介助 一部を介助 介助なし	
入浴	全部を介助 一部を介助 介助なし	
衣類の着脱	全部を介助 一部を介助 介助なし	

(3) 被災前（令和6年1月1日時点）の故人の既往歴について

既 往 歴	〔□ある（心臓病、高血圧、糖尿病、その他（ ）） □なし〕			
通院先 ※市町より聞 取調査を行 う場合があり ます。	病院名	〇〇クリニック	担当医師	富山 医師
	所在市町	△市	通院状況	2週に1回薬をもらいに行く
	病院名	□□病院	担当医師	福井 医師
	所在市町	◎◎市	通院状況	半年に1回定期検査

2 災害発生後の故人の状況について

(1) 自宅について

① 自宅の損壊状況

市町のり災証明に基づき、あてはまるところ1つに○を付けてください。

全壊	大規模 半壊	中規模 半壊	半壊	準半壊	一部 損壊	床上 浸水	床下 浸水	損壊なし (またはり災証明未申請)
○								

② 自宅での居住の状況

災害発生当時の状況について、あてはまるところ1つに○を付けてください。

自宅に居住していた	病院に入院していた	福祉施設・介護施設に 入院していた	その他の場所に居住し ていた
○			

③ 仮住まい又は自宅の再建、修理の状況

自宅が損壊した方は、あてはまるところに入居又は修理が完了した時期を記入してください。

	入居又は修理が完了した時期			
応急仮設住宅に入居	令和	年	月	日頃
借上げ住宅（みなし仮設住宅）に入居	令和	6年	2月	20日頃
自宅を新築又は中古住宅を購入	令和	年	月	日頃
被災前から自宅を修理	令和	年	月	日頃
その他（ ）	令和	年	月	日頃

(2) 避難所又は親類宅での避難生活

自宅以外の場所で生活された方は記入してください。

① 避難生活をされた場所

避難所となった場所の名前	その避難所に移った時期			
●●公民館	令和	6年	1月	1日頃
〇〇小学校体育館	令和	6年	1月	7日頃
△△ホテル	令和	6年	1月	20日頃
	令和	年	月	日頃

② 親類宅、知人宅などでの避難生活

避難先の世帯主名	故人との続柄 (親類宅のみ)	避難先の 市町村名	避難所に移った時期			
石川 二郎	次男	□□市	令和	6年	2月	1日頃
			令和	年	月	日頃
			令和	年	月	日頃
			令和	年	月	日頃

③ 避難先から自宅への帰宅（後片付け等の目的にした一時帰宅を除く）の有無

帰宅できた（令和 年 月 日頃） ・ 帰宅できなかった

(3) 被災後、故人が自宅や避難先で家族による介護を必要とするようになった場合は、有無、内容、主に介護をされていた方を記入してください。

	介護の有無（あてはまるところに○）	介護者の氏名、故人との続柄
歩行（自宅内での移動）	全部を介助 一部を介助 介助なし	氏名
排泄（失禁の状況）	全部を介助 一部を介助 介助なし	石川 一郎（被災後から）
食事	全部を介助 一部を介助 介助なし	石川 二郎（次男宅避難時）
入浴	全部を介助 一部を介助 介助なし	続柄
衣類の着脱	全部を介助 一部を介助 介助なし	長男、次男

3 あなたが考える故人の死亡と、被災との関係

(1) 災害のために発生した何の出来事が、故人の死亡につながったと考えるのか、具体的に記入してください。

① 災害が原因で発生した出来事を書いてください。	② ①によって、故人の様子がどのように変化したのか書いてください。
R6/1/1 地震により自宅が全壊したため、●●公民館に避難した R6/1/7 ○○小学校体育館に移動した R6/1/20 2次避難で△△ホテルに移動した。 R6/2/1 □□市の次男宅へ移った。 R6/2/20 ◎◎市の借上げ住宅に転居。 R6/3/15 午前9時頃発熱に気付き、■■■医院を受診。□□症との診断を受け、△△病院を紹介され入院した。 R6/4/1 □□症の症状は改善したが、▲▲症が悪化したため手術した。 R6/4/10 容体が急変し、午前8時42分▲▲症のため死亡した。	・ ●●公民館では特に変わりなく過ごしていたが、○○小学校体育館に移動後の1/15頃から食欲低下し、おにぎり半分しか食べなくなった。△△ホテルに移動後も同様であった。 ・ 次男宅へ移ってから、食事をとった事を忘れる、外出先から帰ってこられなくなる等の状態が見られ、◎◎市の借上げ住宅に転居後も同様であった。 ・ 入院直後は嘔吐下痢が2日間続いたが、治療によって回復した。この時、日常会話はできていた。 ・ 手術前は胸部の痛みを訴え、意識ははっきりせず、声をかけてもうなずく程度だった。 ・ 4/9の夜から意識を失い、自力で呼吸ができなくなったため人工呼吸器を装着していた。

この欄には、出来事（事実、事象）のみを記入してください。

御遺族の思い、推測、お考えなどは次のページに記入してください。

(2) あなたが考える、故人の死亡と被災との関係を簡潔に書いてください。

この欄には、災害が死亡にどのように関係したかという、
御遺族のお考えを記入してください。

<記載例①（避難所に避難した場合）>

災害前から持病の〇〇症あり。

避難生活中が長引く中、被災によるショックや生活再建への不安などを強く感じたことで活動する気力を失い、それが原因で、徐々に体力が低下していく様子が見られました。

また、災害前まで週に1回通院していた〇〇医院が地震により受診できなくなったことが影響して持病の病状が悪化したと思います。

これらのことから、故人の死亡と令和6年能登半島地震が関係していると考えます。

<記載例②（在宅避難した場合）>

災害前から〇〇の持病を患っていたことや〇〇が理由で、日中は自宅で生活し、夜間は車中泊をして生活していた。

食料や水、毛布などの物資を近所の避難所で受取り、何とか生活を続けていましたが、自宅の停電・断水や狭い車内での寝泊まりで相当体力が低下したと考えます。

〇月〇日には、市外の親族宅に避難するも、災害前よりも体力が低下していたことが明らかで、病院に入院したが、〇〇により死亡しました。

持病の〇〇を患っていたものの、停電・断水がなければ、もっと長く生きられたと考えます。

これらのことから、故人の死亡と令和6年能登半島地震が関係していると考えます。

<記載例③（福祉施設で被災した場合）>

災害前から施設に入居し、施設のレクリエーションに意欲的に参加していたほか、他の入居者と積極的に会話するなど元気な様子を見せており、医師からも特に生活上の制限などは指示されていませんでした。

発災後は、施設の被災による職員により入居者の世話が困難となり、入居者は個室から施設の大広間に移動させられましたが、〇〇により十分な介護を受けられず、〇〇な状態となり、次第に体力が低下して死亡したと考えます。

これらのことから、故人の死亡と令和6年能登半島地震が関係していると考えます。

4 災害関連死の公表の同意について

審査会で災害関連死として認定された場合、公表してよい項目に「○」をつけてください。

年代	性別	死因	死亡した経緯
○		○	○